

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救助訓練(応急はしご)実施中に熱中症疑いになったもの。
3. 体験した事例の中心的要素	炎天下の中、訓練に集中するあまりに自分達に負荷をかけ、災害現場同様に活動イメージし訓練を行っていた為、水分補給を怠り休息を取らず実施した結果、訓練中に目眩及び息切れが出現し、救助完了まで活動することができなかった。
4. 体験した事例の原因・理由	自分が熱中症になるわけがないと油断し、休憩中の水分補給が不十分であった。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
------------------	-----------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成24年8月16日 午後3時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：屋外階段1.5階部分
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	転倒
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[救助(通常時)]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	高所救助訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[27]歳、勤続年数[4]年、現場経験年数[4]年、階級[消防士] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[32]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[14]年、階級[消防士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[36]歳、勤続年数[13]年、現場経験年数[13]年、階級[消防士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [車長]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	三連はしごを搬送した。	
経過2	当事者B	当事者Aと協力し、三連はしごを搬送した。	
経過3	当事者C	縛帯及び救出ロープ搬送。(安全管理兼務)	
経過4	当事者A・B	三連はしごを架ていた。	
経過5	当事者A	はしご登ていし、開口部より進入した。	
経過6	当事者B	救出ロープを設定し、開口部より進入した。	
経過7	当事者A・B	要救助者(人形)に縛着した。	
経過8	当事者C	はしご基部にて、確保準備。	
経過9	当事者A・B	要救助者救出準備。	
経過10	当事者A	救出開始直前になり、目眩及び息切れ発症。	
経過11	当事者B・C	当事者Aの異変に気づいた。	
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が劣っていた。集中力、注意力がなかった。他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。その他 : 水分の補給を実施していなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	はい

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

日頃からの、行動や経験不足を解消するために、資機材の取扱い方及び救助法のイメージトレーニングを実施し、定期的な机上及び活動シミュレーションを行い、小隊訓練に臨み、普段からの、隊員間の意思疎通を図っている。

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

暑い日に訓練実施する時は、こまめな水分補給及び休息をとり、体調管理に努めるとともに、若い隊員が無理をせず、なんでも言いやすい環境作りを図っている。

○指揮・情報伝達の対策について

